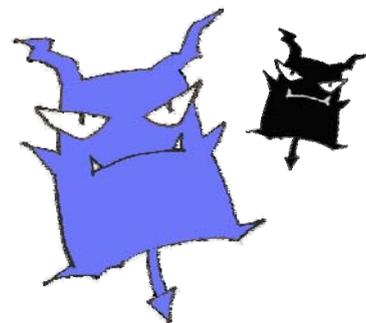


平成19年12月

かんせんしょう

# 京都市こどもの感染症



★ ☆ **これから流行りそうなものは…**

< 去年の今頃(12月)の順位 >

順位	病気の名前	特徴、予防法など
1位	かんせんせいいちょうえん 感染性胃腸炎	発熱、下痢、嘔吐などが症状。ノロウイルスが有名ですが、その他の色々なウイルスや細菌も原因となり、何回もかかってしまうことがあります。予防のため、手洗いや食品の十分な加熱などを心がけましょう。
2位	みず 水ぼうそう すいとう (水痘)	水痘ウイルスが原因で、全身に発しんができます。伝染力が強く、肺炎・脳炎・髄膜炎などの合併症を併発することもあります。 発病3日以内に抗ウイルス薬を服用することで、症状の軽減が期待できます。予防接種は任意(1歳以上で、1回接種)ですが、集団生活をする場合は、受けておかれることをおすすめします。かかりつけの医療機関にご相談ください。 なお、集団へ感染がひろがるのを防止するため、学校保健法による出席停止期間は、 <u>すべての発しんが、かさぶたになるまで</u> となっています。
3位	ぐんようけつせい A群溶血性レンサ きゅうきんいんとうえん 球菌咽頭炎	のどの痛みと発熱で始まり、赤い発しんが全身に広がります。3~4日すると、舌が、いちごのように赤くなって、ぶつぶつになる、いちご舌とよばれる症状が特徴で、4~5歳での感染が多くなっています。 細菌によって起こる病気ですので、治療には主に抗菌薬(主にペニシリン系)を用います。症状が軽快しても、細菌が完全に体から消えたわけではありません。医師の指示に従って、お薬をきちんと飲むことが大切です。

## せき ●● ~咳エチケット知っていますか?~ ●●

今シーズンは、例年に比インフルエンザの流行の始まりがはやく、11月26日までの調査では、本市での学級閉鎖の報告は未だないものの、全国ではすでに152校(昨シーズンの同時期では1校)の報告があり、近畿圏内でも25校あります。

12月に入って、気温が下がり、空気が乾燥してくると、患者数がさらに増加してくる恐れがあります。もし、咳やくしゃみなど症状が出始めたら、「咳エチケット」を心がけましょう!

★ 周囲の方への感染防止のために「咳エチケット」を心がけましょう!

マスクをせずに咳やくしゃみをすると、ウイルスが2mから3m飛ぶと言われています。そこで必要なことが「咳エチケット」。

- ◎ 咳・くしゃみの際にはティッシュなどで口と鼻を押さえ、周りの人から顔をそむけましょう。
- ◎ 鼻水、痰などを含んだティッシュは、すぐにフタつきのゴミ箱にすてましょう。
- ◎ 症状のある人はマスクを正しく着用し、感染防止に努めましょう。



◆ 気になる症状があるときは、かかりつけの医療機関に相談しましょう!